

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

平成25年度発生予察技術情報第3号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

平成25年度技術情報第3号

果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）の誘殺数は、5月第2半旬から増加が認められ、特に出水地域を中心に増加し続けている。また、一部の地域で果樹園への飛来が確認されており、今後、気温（夜温）の上昇にともない、果樹園へ飛来し、吸汁加害する恐れがあるので、注意が必要である。

1 対象作物 カンキツ、ウメ、モモ、ナシ、ビワ等

2 情報の根拠

- （1）出水市予察灯の誘殺数は5月第2半旬から増加し、第4半旬でツヤアオカメムシが489頭（前年17頭、平年63頭）、チャバネアオカメムシが213頭（前年4頭、平年7頭）誘殺された（表1、図1）。
- （2）秋に発生が多かった場合は翌年春期の誘殺数は多い傾向にある。昨年9月の誘殺数は、出水地域を中心に平年に比べて多かったことから、今後、スギ・ヒノキへ移動するまで越冬成虫の飛来が多くなる可能性が高い。
- （3）チャバネアオカメムシの越冬量は0.59頭/m²（前年0.10頭/m²、平年0.17頭/m²）で、前年よりも多かった（図2）。
- （4）ツヤアオカメムシのイヌマキ樹冠内での越冬量は、一部の地域で前年よりやや多い傾向であった（図3）。

3 防除上注意すべき事項

- （1）カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるので、園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。ウメなど収穫期の近い樹種では特に注意する。
- （2）飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類の発生を助長するので、散布後の発生に注意する。
- （3）チャバネアオカメムシの被害の多いほ場では、黄色蛍光灯（波長500～600nm）を集団点灯すると飛来防止効果が高い。
- （4）果実への袋かけや目合い4mmの防虫ネットを被覆することで被害の軽減を図る。
- （5）カメムシ類の移動は夜温（最低温度14℃以上）が高くなると活発になる。
- （6）今後、カメムシ類の好適な餌植物であるヒノキ、スギの球果量によっては、7月以降、新成虫の発生が多くなる可能性があるため注意する。

< 参考資料 >

表 1 予察灯におけるカメムシ類の誘殺状況（4～5月）
ツヤアオカメムシ

半旬	垂水市 1)		南さつま市 2)		いちき串木野市 3)		薩摩川内市 4)		出水市 5)		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
4月	1	1	3	0	0	0	0	0	0	3	4
	2	0	8	2	1	41	2	0	0	0	1
	3	4	12	24	1	54	11	0	0	15	4
	4	7	76	39	4	62	43	8	1	2	26
	5	0	173	17	3	0	16	0	2	0	8
	6	8	148	41	6	93	46	16	1	1	23
5月	1	0	227	0	12	6	25	0	4	5	101
	2	6	149	67	16	94	56	14	11	130	83
	3	24	98	41	11	8	13	38	8	107	54
	4	6	87	79	20	27	45	27	10	489	63

チャバネアオカメムシ

半旬	垂水市 1)		南さつま市 2)		いちき串木野市 3)		薩摩川内市 4)		出水市 5)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	2	2	0	0	7	0	0	1
	4	4	6	13	0	0	0	0	4	0
	5	0	9	0	1	0	1	0	2	0
	6	0	9	10	0	0	10	7	4	0
5月	1	0	23	0	2	0	3	0	81	0
	2	3	18	14	5	0	17	11	36	42
	3	0	34	5	13	16	2	102	30	265
	4	4	24	9	8	5	13	27	8	213

1) 農業開発総合センター果樹部（垂水市）， 2) 南さつま市加世田唐仁原， 3) いちき串木野市湊町
4) 農業開発総合センター果樹部北薩分場（薩摩川内市東郷町）， 5) 出水市美原町

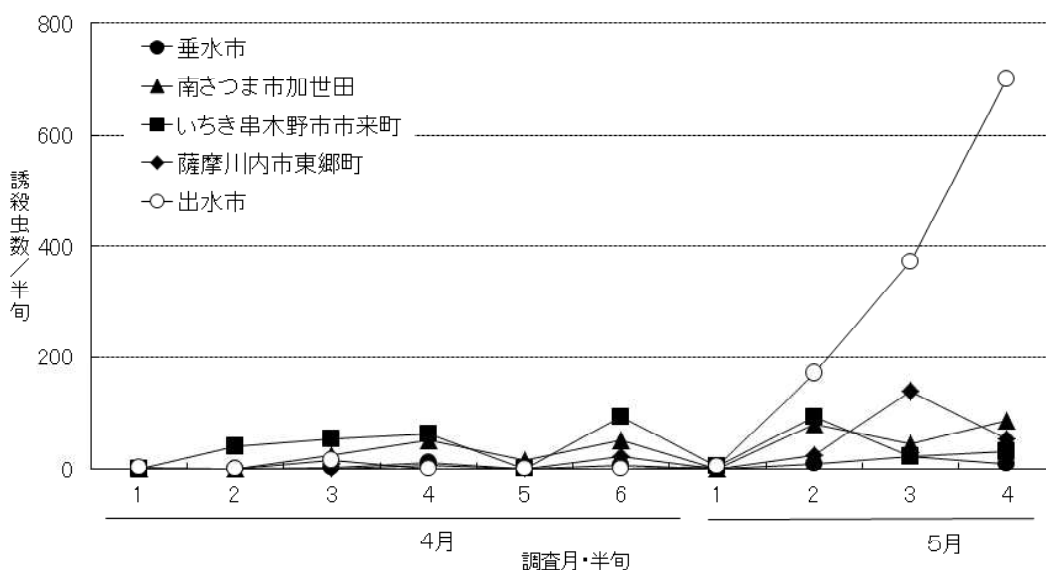


図 1 カメムシ類（2種計）の誘殺状況（平成25年）

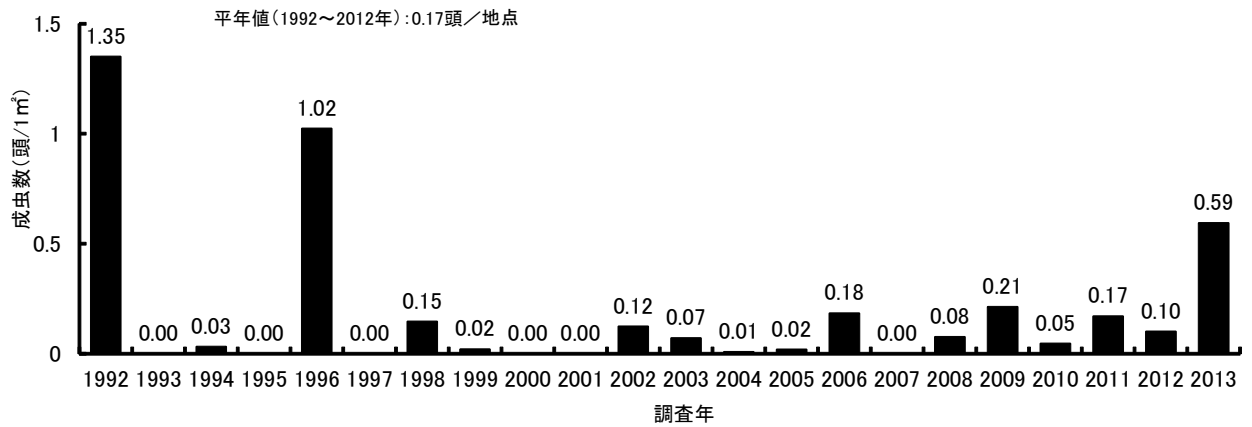


図2 チャバネアオカメムシ越冬量の年次推移

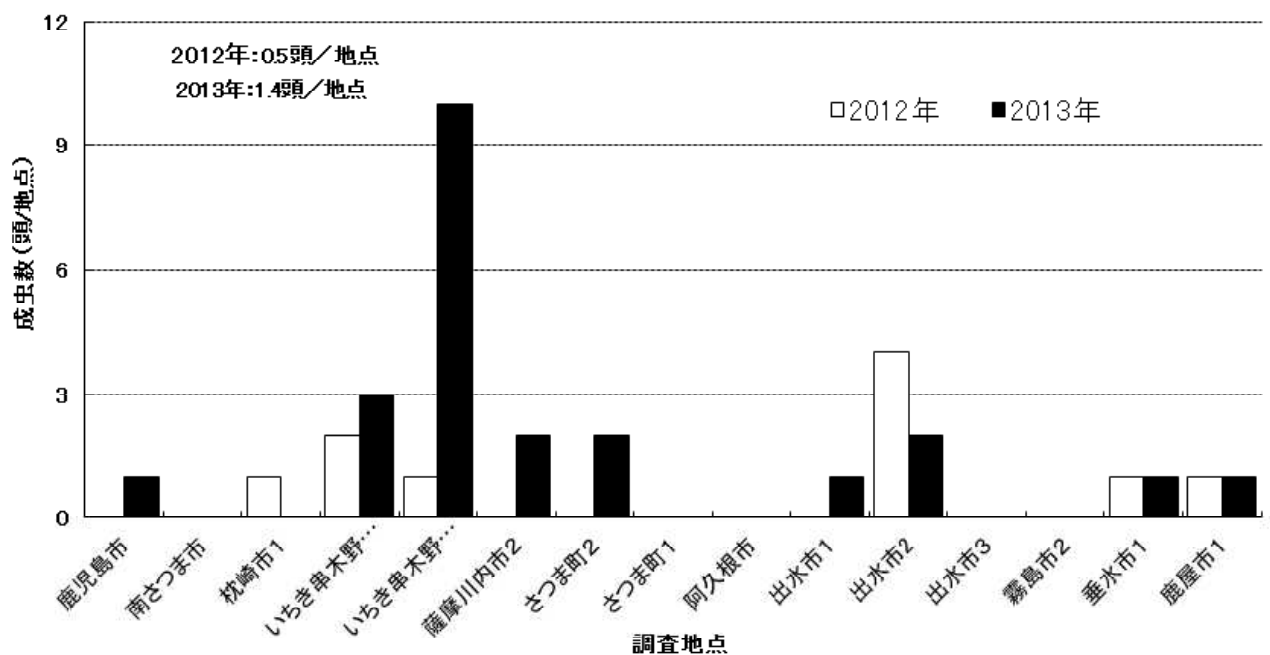


図3 ツヤアオカメムシの越冬状況(平成25年1~2月:イヌマキ樹冠内調査)